

第3回 北上川上流ダム再生環境影響評価技術検討委員会 議事概要（暫定版）

（事務局説明を除く、質疑応答について記載）

（○：委員、●：事務局）

1. 前回委員会での意見と対応状況について

<意見なし>

2. 方法書（案）について

○委員：水環境の調査地点について、原石山予定地周辺には設定しないのか。小規模な沢が分布しているため、留意する必要がある。原石山予定地から原石材料を調達することに決定した場合には、方法書に記載するということが良いか。

●事務局：ご意見のとおり対応します。

○委員：ダム再生後は貯水池の水位や水位変動のパターンに変化は生じるか。水位変動域については、現状の環境を把握した上で予測する必要がある。

○委員：ダム再生後の水位変動の影響については、実際の運用状況によって影響の程度が変化するため、アセス時の予測で十分に評価することが困難と考えられる。湖岸の外来種であるイタチハギの分布変化への対応も検討が必要である。

○委員：ダム再生後の環境変化については、ダムフォローアップ制度に基づくモニタリング調査やその後の河川水辺の国勢調査で把握していくものとする。

●事務局：ダム再生後の平常時（出水期及び非出水期）の貯水位はほとんど変化が生じない。ダム再生後の貯水位変動の影響については、ご意見のとおり今後の予測評価で対応します。

○委員：人と自然との触れ合いの活動の場について、四十四田公園の調査地点をダム堤体や展示室（ものしり館）も含めた範囲に拡大できないか。

●事務局：ダムアセスマニュアルでは「自然との触れ合い活動」を登山、ハイキング、自然観察等と定義しているため、人工構造物であるダム堤体や展示室の利用は対象外。

○委員：社会的状況の調査として、7市町を対象とするのではなく、盛岡市に絞って、ダムの利用状況のアンケート調査を実施することはできないか。

●事務局：ダムの利用状況に関する意識調査は重要事項と捉えている。ダムの利用状況については、四十四田ダム管理の水辺の国勢調査で取り組んでいる「ダム湖利用実態調査」で実施中（5年に1回）。

3. 今後の予定について

○委員：次回の第4回技術検討委員会では、原石材料の調達方法の結論を踏まえた方法書（案）の報告とあるが、原石山に関する議論は委員会ではしないのか。

●事務局：次回委員会で議論します。説明資料の文章表現は修正します。

4. 委員会資料の公開対象について

○委員：資料-4の20ページ以降の方法書の内容については、今後変更となる可能性があるため、方法書の公告・縦覧前に公表するのは控えた方が良い。原石山や材料採取予定地についても同様である。

●事務局：資料の公表範囲は後日、事務局で案を作成し各委員に照会します。